

中学校の旧校舎で農福連携

NPO法人 ろっこうの木（市川町）



経緯

- ・兵庫植物工場事業協同組合（神戸市）は、9年前に閉校した旧瀬加中学校の校舎を活用し、2021年3月から温度と湿度が一定に保たれたコンテナ内でキクラゲの菌床栽培を始める。2022年には、LED照明を使った水耕栽培でバジルやメロン等を栽培する事業を開始。
- ・福祉事業者から空き教室がたくさんあるので、これらの教室を生かした方がよいとのアドバイスを受け、2021年1月に特定非営利活動法人「ろっこうの木」を設立。同年6月に就労継続支援施設B型事業所を開所する。
- ・当初、定員10名で始めたところ、口コミ等で取組内容が広く知られるようになり、現在の登録者は23名。うち14名程度は毎日神崎郡3町や姫路市北部の近場から通所している。

取組内容

- ・利用者は、水耕栽培の培養液に異常値が出ていないかなどの確認作業や、キクラゲの表面についた胞子を洗い落としたりするなどの管理作業、週3日ある出荷日の午前中は収穫後のパック詰め作業に従事している。
- ・校舎の窓から自然豊かな山並みが見渡せる環境が好評で、気持ちよく農作業等に取り組めるので、利用者間のコミュニケーションに好影響を及ぼしている。
- ・バジルは町内のピザ店に販売。水耕栽培のため洗浄する必要がなく、冬も収穫可能で1年中出荷でき重宝されている。さらに、これを加工したバジルソースは、中播磨県民センター主催の「はばたけ授産品コンクール2023」において銅賞を受賞した。キクラゲはコープこうべのほかJA直売所等に販売している。

今後の展望等

- ・自分たちが生産したものが売れることや、成功体験を積み重ねることで見違えるように変わっていく利用者の姿を見ることができ、福祉事業所の運営者として今まで経験したことのない感動を感じている。
- ・市川町の気候風土に適しているコケ栽培を実証中。また、教室や校庭にはまだまだ空きがあるので、季節に関係なく通年栽培できる植物工場のメリットを生かし、規模拡大を図って売り上げを伸ばしたい。